

2016 年度聖書の集い（第 2 回）

2016 年 6 月 8 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannnari.com/>

古本 靖久

1、聖歌 498 番 「主われを愛す」

2、お祈り

3、聖書 ヨハネの手紙一 4 章 7 節～12 節（新約聖書 445 ページ）

4、今日の内容

心に留めたい聖書のことば「② 神は愛だからです」



今月は「神は愛」です。英語でいうと、「God is Love」。わたしは、この「愛」という言葉がとても苦手でした。誰かのことを愛していると心から言えるようになったのは、子どもが生まれてからのように思います。

ところが、聖書を読んでいくと新約聖書(黄色い本)には、363 回も愛という言葉が出てきます。つまり一年で聖書を一通り読んだとすると、ほぼ毎日、愛に出会うことができるのです。聖書が神さまからのラブレターと言われるのは、そのためです。

では聖書に書かれている「愛」とはどのようなことを指すのでしょうか。ご一緒に考えてみたいと思います。

① 聖書の愛

わたしたちが一般的に思い描く愛と、聖書のいう愛とは少し意味が違います。わたしたちは特定の人との関係で、愛というものを考えてしまうかもしれません。

しかし聖書では、「隣人愛」という言葉があるように不特定多数に対するものです。つまりすべての人が対象なのですね。

以前、牧師の勉強をし始めたころ、とにかく出会う人に「愛してます」と言おうと考えたことがありました。しかし何人が試してみてやめました。誤解されるからです。聖書の愛は、どのように言えばよいのでしょうか。

② 御大切という言葉

だいぶ前に紹介したことがあります。聖書が日本にやってきたときに聖書を日本語にしたギョツラフという人は、この言葉を「御大切」と訳しました。とってもとって大切にする、それが聖書のいう愛だということです。

愛という漢字は、愛おいしいとも読めます。手のひらに落ちてきたひな鳥を、傷つけないように優しくそっと包み込む。それが神さまの愛なのですね。

わたしたちはキリスト教に限らず、様々な神さまのイメージをもっているかもしれません。悪いことをしたら罰を与える。困ったときに助けてくれる。嫌な相手を倒してくれる。いろいろな神さまを思い浮かべることでしょう。

しかしキリスト教の神さまは、わたしたちをとことん愛してくれる神さまです。わたしたちを大切に思い、いつもそばにいてくださる。その愛を、どうぞ受け入れてください。

③ 神さまに愛されたわたしたちができること

冷たい水の中に熱いお湯を入れたら、全体が温かくなります。同じように神さまの愛に触れたら、わたしたち自身も愛に包まれます。笑顔いっぱいの人と隣にいと、こちらまでこやかになるのと同じです。

わたしたちはみな、子どもたちのことを大切に思っています。大好きです。愛しています。でも時には、子どもたちのことがうっとうしく感じられ、一人になりたい、そう思うってしまうことだってあるでしょう。

でもそんなときには、神さまがわたしたちのことをまず愛してくださっていることを思い出してください。わたしたちは大きな愛に包まれている。あたたかな神さまのみ腕の中に抱かれているのです。

愛されていることを知ったときにこそ、わたしたちは子どもたちのことをいつでも心から愛せるのではないのでしょうか。

＜桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ＞

日曜学校（子どもの礼拝）： 毎週日曜日 午前 9 時 30 分から

日曜礼拝： 毎週日曜日 午前 10 時 30 分から